

社会資本総合整備計画 事後評価書

令和8年2月20日

計画の名称	守口都市核周辺地区都市再生整備計画													
計画の期間	令和元年度 ～ 令和 0 3 年度 （3年間）										重点配分対象の該当			
交付対象	守口市													
計画の目標	・大目標：地域における賑わいの創出 ・目標：商店街の活性化 地域コミュニティの活性化 安全安心なまちづくり													
全体事業費（百万円）	合計（A＋B＋C＋D）		1,689	A	1,689	B	0	C	0	D	0	効果促進事業費の割合 C／（A+B+C+D）	0	%

番号	計画の成果目標（定量的指標）			
	定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況及び目標値		
		当初現況値	中間目標値	最終目標値
		H29		R 4
1	商店街空き店舗率			
	土居商店街の空き店舗率	40%		35%
2	商店街沿い公園等を活用したイベント数			
	土居公園・（仮称）さつき小学校跡地公園・西部コミュニティセンター（仮称）レクリエーションホール（体育室）を活用したイベント数	0 件／年		6 件／年
3	歩行者・自転車の事故数			
	守口都市核周辺地区における事故数	100件／年		80件／年
4	防災講習会の開催回数			
	守口市内における防災講習会の開催回数	6 回／年		10回／年
5				
6				

備考等	個別施設計画を含む	—	国土強靱化を含む	—	定住自立圏を含む	—	連携中枢都市圏を含む	—	流域水循環計画を含む	—	地域再生計画を含む	—

A 基幹事業																				
基幹事業（大）	番号	事業 種別	地域 種別	交付 対象	直接 間接	事業者	種別 1	種別 2	要素となる事業名 （事業箇所）	事業内容 （延長・面積等）	市区町村名／ 港湾・地区名	事業実施期間（年度）					全体事業費 （百万円）	費用 便益比	個別施設計画 策定状況	
		一体的に実施することにより期待される効果																		
		R01	R02	R03	R04	R05														
都市再生整備計画事業	A10-001	都市再生	一般	守口市	直接	守口市	—	—	守口都市核周辺地区 都市再生整備計画	区域面積 A=219ha	守口市	■	■	■			1,689		—	
		備考																		
												小計						1,689		
											合計						1,689			

事 後 評 価

○事後評価の実施地整、実施時期

事後評価の実施体制

守口市が実施した。

事後評価の実施時期

令和4年度

公表の方法

市のホームページに掲載することによる。

○事業効果の発現状況

定量的指標に関連する
交付対象事業の効果の発現状況

土居商店街に案内看板を設置し、守口市や土居商店街の魅力を向上させることができ、商店街の空き店舗数の減少につなげることができた。さらに、道路整備を行ったことで、歩行者及び自転車の安全性が向上したことにより回遊性が向上し、商店街の利用促進につなげることができた。

公園内にオープンスペース（芝生広場）を設けたこと及びコミュニティセンター体育室を整備したことにより、イベントの開催を促進し、イベント回数の増加につなげることができた。

道路に自転車通行空間を設けることで歩行者と自転車の分離を行った。また、交通量の多い主要道路（馬場菊水線等）の歩道を拡幅することで、歩行者優先の空間を創出することができ、事故数を減少させることができた。

土居公園内に防災備蓄倉庫、かまどベンチ、防災バーゴラ等を整備し、防災性の高い公園を整備したことにより、防災への意識付けを行う事ができ、防災講習会の開催につなげることができた。

定量的指標以外の交付対象事業の
効果の発現状況（必要に応じて記述）

○特記事項（今後の方針等）

今後のまちづくりの方策

- ・定期的に商店街近くでのイベントを開催し、コミュニティ形成の場を増加させる。
- ・公園の管理・整備を行い、利用者を増加させることにより、近隣の土居商店街の利用者の増加につなげる。
- ・防災講座を定期的に開催し、防災意識の維持に努める。
- ・道路の維持管理を行い、歩行者と自転車の分離を維持し、安全・安心なまちを持続する。

○目標値の達成状況			
番号	指標（略称）		
	目標値／実績値		目標値と実績値に差が出た要因
1	商店街空き店舗率		
	最終目標値	35%	商店街の活性化に向けたアンケートを実施し、活性化に向けた取り組みを検討した。また、土居商店街に案内看板を設置し、守口市や土居商店街の魅力を向上させることができ、商店街の空き店舗数の減少につなげることができた。さらに、道路整備を行ったことで、歩行者及び自転車の安全性が向上したことにより回遊性が向上し、商店街の利用促進につなげることができ、目標値を上回る実績値となった。
	最終実績値	34%	
2	商店街沿い公園等を活用したイベント数		
	最終目標値	6件／年	公園内にオープンスペース（芝生広場）を設けたこと及びコミュニティセンター体育室を整備したことにより、イベントの開催を促進し、イベント回数の増加につなげることができた。
	最終実績値	8件／年	
3	歩行者・自転車の事故数		
	最終目標値	80件／年	道路に自転車通行空間を設けることで歩行者と自転車の分離を行った。また、交通量の多い主要道路（馬場菊水線等）の歩道を拡幅することで、歩行者優先の空間を創出することができ、事故数を減少させることができた。
	最終実績値	77件／年	
4	防災講習会の開催回数		
	最終目標値	10回／年	土居公園内には、防災備蓄倉庫、かまどベンチ、防災バーゴラ等を整備し、防災性の高い公園を整備したことにより、防災への意識付けを行う事ができ、防災講習会の開催につなげることができた。
	最終実績値	11回／年	
5			
	最終目標値		
	最終実績値		
6			
	最終目標値		
	最終実績値		